

## 「全鍍連」 2023年 8月号 理事長のよこがお

新潟県鍍金工業組合 理事長 倉橋 忠男 (倉橋鍍金(株) 代表取締役)

「県央地区でできないものはない」



いつもお世話になっております。

新潟県鍍金工業組合の理事長を仰せつかりました倉橋忠男です。

新潟県は「米どころ」、「酒どころ」として、農業県のイメージですが、「三条市・燕市を中心とした県央地区」は金属産業(モノづくり)の集積地として全国的に有名です。

### 【県央地区でできないものはない】

県央地区は、あらゆる業種が揃っていて何にでも対応できる地域特性があります。

材料屋・メーカーから最終工程のメッキ屋まで、各業者がそれぞれ、車で 15～ 20 分の距離に存在していて、効率が良く、「この地域で作れないものはない」といわれています。

新潟県鍍金工業組合では組合員の約 80%が県央地区に所在しており、その生産性の高さは、中小企業の集積地としてのメリットであると考えています。

### 【ルーツは大谷清兵衛】

戦国時代の三条城主は上杉方の武将でしたが、関ヶ原の合戦後、上杉は「越後」から「会津」。「米沢」へと国替えになり、しばらくの間、三条は徳川方の武将が城主となりました。

しかし、まもなく三条藩は廃藩となり、出雲崎代官支配(幕府直轄領)となりました。

三条は暴れ川五十嵐川が日本一の大河信濃川と合流する地点にあり、たびたび洪水災害に見舞われて、農民の貧困が甚だしかったといわれています。

出雲崎は、佐渡の金山で採掘された「金」が江戸へ向けて陸揚げされる中継点でした。

出雲崎の二代目代官大谷清兵衛は、江戸へ「金」を運んだ帰路、和釘職人を伴って三条へ戻り、困窮する農民の救済策に農家の副業として『和釘製造』を指導しました。

当時の江戸は、人口爆発に伴う住宅建設と、さらには明暦の大火(1657)による復興のため、三条で生産された和

釘をはじめとする建築金具が盛んに出荷され、農民に大いに喜ばれたといわれており、三条の基幹産業である金属産業のルーツであります。

#### 【佐渡の金山】

現在、「佐渡金山」を「世界文化遺産」への登録を目指しています。

三条が、多少なりとも佐渡の金山に関係しており、世界文化遺産登録の実現を期待したいと思っています。

機関誌「全鍍連」への寄稿に併せて、地場産業(金属産業)の歴史を再確認できました。

今後とも、よろしく願いいたします。